

第1回高石市行政計画審議会 議事結果概要

開催日時	令和元年8月7日(水) 午前10時30分～午後0時30分
開催場所	高石市役所 別館3階 会議室311・312
出席者	日野委員(会長)、久保田委員、西村委員、宮崎委員、鈴木委員
議事	議題1 高石市まち・ひと・しごと創生総合戦略等における効果検証について
資料等	次第 委員等名簿 基本目標評価シート

発言者	発言内容
事務局	<p>令和元年度第1回高石市行政計画審議会を開会する。</p> <p>まず、当審議会は委員5名が全員出席のため成立している。</p> <p>また、委員の変更について、国の人事異動に伴い、横山委員から鈴木委員に、本市市議会議長の交代により、古賀委員から久保田委員にそれぞれご就任いただいているので、併せて報告する。</p> <p>それでは、日野会長に議事進行をお願いします。</p>
日野会長	<p>本日の令和元年度第1回高石市行政計画審議会では、議事次第のとおり、総合戦略における事業の効果検証について、各委員のご意見をいただきながら進めたい。事務局より、本審議会の進め方について説明をお願いします。</p>
事務局	<p>本審議会では、総合戦略の4つの基本目標に関連して平成30年度に実施した事業（国の地方創生推進交付金を活用した事業も含む。）について、PDCAサイクルによる効果検証を行う。</p> <p>会議の進め方については、事務局から平成30年度の事業内容や実績を報告し、委員の皆様からご意見をいただきたい。</p> <p>また、来年度から開始する第2期総合戦略の策定に向け、平成30年度の総括と併せて、4年間の総括もいただきたい。</p>
日野会長	<p>4年間の総括は基本目標ごとに平成30年度の総括と一緒にを行うのか、あるいは、平成30年度の総括が全て終わった後、総括を行うのか。</p>
事務局	<p>前段の方法でお願いしたい。</p>
日野会長	<p>進め方は今の説明通りでよろしいか。</p>
各委員	<p>(異議なし)</p>
<p>基本目標1：子どもを産み育てやすい環境を整える</p>	
事務局	<p>基本目標1においては、平成30年度に実施した事業は、10項目のKPIと、1項目の事業目標。KPIの内6事業が目標を達成、事業目標は達成となっている。</p> <p>なお、目標値の70%を超えている事業が全体の90.0%で、順調に推移していると認識。また、未達成のものは、周知徹底がKPIの達成率向</p>

	上につながることから、PR 方法の工夫等を積極的に進めてまいりたい。
日野会長	子育て・保育に関する項目も多いので、まず、西村委員にご質問・ご意見などお願いしたい。
西村委員	HUGOOD の利用者数は順調に増えており、同様にアプラたかいしの入館者数も増えている。どれだけリピーターが定着するか心配していたが、よく根付いてきている。利用者は、どういった傾向があるか。 また、子育て世代サポーターの育成数は目標を 100%達成しているが、育成したサポーターはどのような活動をしているのか。
事務局	HUGOOD 中のスクエアでのアンケート結果をご説明する。 年齢としては、1 歳から 2 歳児、その保護者が多い。 管理者に確認したところ、平日は週 3、4 日利用する高石市民が多く、土日は初めての利用者（他市からも含む）が多い。平日と土日で利用者層が違うといえるのではないか。 また、アンケートでは、市内利用者が 53.1%、市外利用者が 46.9% でほぼ半々。
事務局	子育てサポーターの主な活動は、アプラで年 2 回行っている「世界のあそび体験フェア」での子育て世代の手伝い、創業型コミュニティカフェでの子どもへの対応等に従事している。
西村委員	乳幼児の子育て世代に役立っているという傾向が良くわかった。 あと 2 つ、質問したい。 不妊治療に関する支援は、数値が下がっている。昨年も PR が必要ではないかという意見を述べたが、何か改善された点があるか。 また、病児保育サービスの整備は、KPI を受入可能者数に変更し、達成度は 100%になったが、利用状況はどうか。もし、利用者数が増えていないとしたら、どのような点で利用しにくいのか。
事務局	まず、不妊治療に関する支援について、昨年も同様のご意見があり、市 HP のトップのスライダーに母子健康センターの写真を掲載し、PR 強化を実施した。 また、府や医療機関と連携し、府の制度とあわせて本市の制度の周知も行っている。

	<p>また、6月末時点及び年度末の最終の実績数値を比較すると、申請件数は平成28年が18件、最終が44件、平成29年8件、最終が32件、平成30年が7件、最終29件で、平成31年は暫定だが6月末時点で16件なので、最終は40件程度ではないかと思われる。</p> <p>ちなみに、不妊不育相談を受けた件数は平成27年から平成29年で2件だが、平成30年では30件となっている。不妊不育相談を全面に出すのか、各種相談等全体事業として不妊不育相談を受けるのかの中で周知していくのか、見極めていきたい。</p>
事務局	<p>病児保育は訪問型と施設型がある。</p> <p>訪問型は平成28年7月、施設型は平成28年11月から開始したため、平成29年と平成30年について、利用者数を回答する。</p> <p>施設型は平成29年で119件、平成30年で147件。訪問型は平成29年で29件、平成30年で51件となっており、両事業とも順調と言える。今後も事業者と連携して、この事業を真に必要とされる方々の満足度を高めながら利用の促進を図ってまいりたい。</p>
西村委員	<p>少しずつPR等の効果などが出始めていると感じる。</p>
日野会長	<p>この数値は多い方がいいのか、難しい問題がある。</p> <p>病児保育は受け入れできる状態が大事ということで、KPIを変更した。不妊治療もそういった方がどの程度いて、どれだけ対応できたかが大事。昨年度も、制度の改善について市独自ということも含め、ご質問があったがどうか。</p>
事務局	<p>まだ改善は出来ていない。府に申請しているところで、市の方も伝えるようにしている。ただ、府の実施後に、市が申請を受け付けるというのは変わっていない。また、昨年、所得制限の話もあったが、現段階では府の制度に則った形で、府の実施後に市の方が上乗せする形になっているので、所得制限は設けたままではある。今後の検討課題とさせていただきたい。</p>
日野会長	<p>資料をみると、おおむね達成している。子育て施策の充実はある程度評価できる。</p> <p>広域で考えると、市民からすれば、その他の市と同じでいいのか、というのは議論していかなければならない。</p>

	<p>高石に住んで欲しいということにするなら、市で住んだ方が得というようにことも考えなければと思うが。</p> <p>本市が子育て施策を頑張っていることは数字から読める。</p> <p>平成 30 年度に関してはおおむね順調に推移していると理解できる。未達のものも KPI の数字がこれでいいのかというのがある。根拠があればいいが、ある程度の設定はあるがそれでいいのか。</p> <p>前年比で考えるべきというものもあるという見方。そういうと、大きく下がっているのは無い。4 年間でみれば達成率が下がっているものもあるが、前年と比べれば現状維持か微増。</p> <p>4 年間の目標に対してはおおむね順調。こういう考え方でいいか。</p>
西村委員	<p>基本目標 1 の施策については、概ね順調だと思う。</p> <p>一方で、施策が数値目標の達成に繋がっているのかどうかのことが大事。目標は達成できていないが、人口減少をなんとか食い止めているという効果は出ているのではないか。</p> <p>また、政策を数値目標につなげるには、PR が大事で、若い世代がどこで子育てをしようかと考えたときに、具体的にその情報を得て、高石市に引っ越してこようか、というのにも繋がる。</p> <p>新たな施策として、子育てワンストップ窓口を設けて、具体的な情報を含めて、気軽に相談できるようにするというのはどうか。</p>
日野会長	<p>次期総合戦略の策定に向けての課題として留意いただきたい。</p> <p>総合戦略策定の際も話をしたが、ライフステージのどんな段階の人に住んで欲しいかを考えなくてはいけない。大阪市内は地価が高く、家は狭くなる。反面、南は比較的大きい家にできる。その途中で女性の就労もあるかもしれない。一つの市で完結しない。</p> <p>ただ、高石市としては、充実した施策を展開している。課題としては、そのことをさらに PR していくことが重要となる。</p> <p>鈴木委員は国交省として意見はないか。</p>
鈴木委員	<p>例えば、HUGOOD は捉えようによっては、絶妙の数となっている。市としては市民には使って欲しいが、一方で市外の人にも使ってもらえているので、市外への PR にもなると言える。</p> <p>住んでみたいまちというのは、行政区域だけでなく、校区などでもニーズは変わってくる。どういう世代、どの属性、どの期間住んでもらうのか、というのは一つの観点かと思う。</p>

	<p>そう考えると、基本目標1は大部分が子育て世代に対してであり、HUGOODなどは役に立っている。高石市だけでなく、周辺地域にも良い影響だと思う。</p>
日野会長	<p>基本目標1については、順調に進捗していて、なおかつ、周辺都市への貢献もしているということで評価されるのではないかと。</p> <p>また、4年間の評価についても、順調には推移している。とはいえ、足りない部分もある。</p> <p>次期総合戦略を策定するので一旦、今年度でとりまとめはするが、KPIの最終となっている平成31年については、各委員からの話を宿題として進めていって欲しいということで。いかがなものか。</p>
各委員	(異議なし)
基本目標2：働きやすい環境を整える	
事務局	<p>基本目標2は、9項目のKPI、1項目の事業目標を設定。(地方創生推進交付金の活用した施策として、「健幸のまちづくり事業から生まれた新規雇用者数」、「新規ヘルスケア商品・サービス創出数」、「協議会参加団体数」、「人材バンク登録者と企業のマッチング数」の4つのKPIを設定) KPIの内1事業が目標を達成で、事業目標は未達成となっている。</p> <p>実施事業については、「資格取得支援の利用者数」や「人材バンクの登録者と企業のマッチング数」は目標未達成ではあるが、平成29年度より大幅に達成率が上昇している。</p> <p>目標値の70%を超えている事業が全体の44.4%であり、未達成のものは、原因を把握し、目標達成に向け改善してまいりたい。</p>
日野会長	<p>労働や経済に関する面から、まず、宮崎委員にご質問・ご意見をいただきたい。</p>
宮崎委員	<p>基本目標1と比べると数値はよくない。</p> <p>前回、前々回も言ったが、資格取得支援などのハードルは高い。また、中小企業への施策が少ないと思う。達成率が100%まで行かない施策は、方法を考えないといけない。</p> <p>しかし、評価としては、4年間でそれなりの結果は出始めている。</p> <p>次期総合戦略に反映するために、資格取得支援はどういう方がどんなふうにご利用されているか。また、資格支援の潜在的ニーズをとらえるこ</p>

	とはできているか。
事務局	<p>まず、資格取得支援の状況は、平成 30 年度から制度を見直し、対象者要件の緩和や資格の拡張を行った。対象者は正規雇用以外で高石市民の方。就職に有利になる資格なら幅広く対象としている。</p> <p>取得後のアンケートでは回答のあった 4 名全員が就職されていた。</p> <p>次に、市内の潜在的需要については、調査等はできていない。</p>
宮崎委員	<p>臨海地区と内陸地区では企業規模等がかなり変わる。大企業は企業立地促進制度は使えるが、中小企業では難しい。</p> <p>企業と行政がマッチした仕組みを考えることが重要。</p>
日野会長	<p>行政だけでなく商工会議所も一緒にやるのが大事。昨年度からの話でハローワークとの関係の話もあった。</p> <p>先ほど、資格取得支援の制度改正の話があったが、昨年度の検証をふまえて、新しい事を実施して結果が出た。また、新しい資格取得も大事だが、今取得している資格を有効に活用するという事も考えて欲しい。</p> <p>別の項目だが、人材バンクでマッチングをしていくのも重要。</p> <p>また、国の支援制度について、国のものであり、市が言っても難しい部分があるかもしれないが、業者のニーズ、制度の問題を聞くことも必要だろう。</p> <p>行政で連携しながら進める。一体で進めていっていただきたい。</p>
日野会長	<p>基本目標 2 は、特に分母を決めるのが難しい。</p> <p>4 年間の総括としては、経年変化を見るべきで、分母が 2 倍になっているものなどもあるが、実績数は増えている。</p> <p>何かをして効果があったという点が重要で、平成 30 年度、4 年間の総括、ともにそういう部分では評価できると考えるがいかがなものか。</p>
宮崎委員	<p>実績値が少しずつ伸びているので、評価はそれでいい。</p> <p>ただ、制度の周知についてさらに努力いただきたい。中小企業では、制度について理解ができていない部分がある。そういう点も併せて検討いただきたい。</p>
日野会長	<p>基本目標 2 は、十分ではないが、努力の成果が見え始めている。</p> <p>先ほど言った 4 年間の推移に、やったことに対しての成果が出ている。</p>

	<p>全体にいえることだが、目標値に対しては十分ではない場合は、次の改善策を考えて欲しい。</p> <p>総括はそれでいいかと思う。</p> <p>ただ、一点だけ確認させていただきたい。</p> <p>企業立地促進制度活用企業の新規雇用のうちの市民雇用というのがある。分母の市民雇用が7人となっているが、全体の新規雇用がどれだけあるのか、それに対して市民の内訳がどれだけかが重要ではないか。</p> <p>新規雇用の数はわかるか。</p>
事務局	把握できていない。
日野会長	<p>全体として新規雇用が多くないなら高石市は評価できる。少ないなら高石の運用に検討が必要という事になる。</p> <p>宿題として、新規雇用数を調べていただきたい。分母が妥当かを検討するには、人口に対してどうか、そこを検討していくことが必要。</p>
事務局	承知した。
日野会長	基本目標2については、以上のような内容でいかなものか。
各委員	(異議なし)
基本目標3：いつまでも健幸にすごせる環境を整える	
事務局	<p>基本目標3においては、平成30年度に実施したものは8項目のKPI。KPIの内4事業が目標を達成している。</p> <p>なお、目標値の70%を超えている事業が62.5%で、おおむね順調に進捗していると認識している。しかし、未達成のものは、原因を把握し、目標達成に向け改善してまいりたい。</p>
日野会長	福祉や安全に関する項目が多いので、まずは、久保田委員に、ご質問・ご意見などをいただきたい。
久保田委員	健幸ウォーキングの参加者数は、大きく伸びている。しかし、会員制となっているので、広く市民にも参加しやすいシステムの構築が重要ではないか。これまでの活動をふまえて、より参加しやすい仕組みを検討していただきたい。

事務局	健幸ウォーキングは参加者も増え、好評をいただいている。閉じられたコミュニティにならないように進めてまいりたい。
久保田委員	その意識はとても重要。ポイントカードで誰でも参加できる形にしているところもある。スマホを使うなど、皆に参加していただけるようなシステム構築をお願いしたい。
日野会長	<p>健幸ウォーキングなどはアクティブな人ほど参加する。消極的な、本来、来てほしい人ほど参加しない。</p> <p>コミュニティの中でも、来てくれない人をターゲットにしていく。</p> <p>また、退職した人材について、把握していないということだったが、案内し、登録してもらうのもいい。参加してくれではなく、こういう役をしてくれという方がいい。歩くと得するからだけでは難しいのでは。</p> <p>積極的に健幸を考えるであるとか、自分のもっている資格などを活かし、コミュニティとして見守りの性質を持ち、イベントをセットするなどの工夫も行う。PR していくことも重要だろう。</p> <p>自動運転や公共交通の話了他でよくする。</p> <p>どうやって予約するかの話で、スマホでは対応できない。システムは最新でも受付は電話のケースが多い。今の高齢者はスマホやHP を使えない。もう少しすればみんな使用可能になる。そういう世代毎に、どのような手法で参加をうながせばいいか考える。</p>
宮崎委員	健幸ウォーキングの参加者数は増えているが、これは延べ人数か。延べ人数だとすると、元気な人が一生懸命参加しているばかりで、参加者数を増やすことが大事だと思うのだが。
事務局	人数は健幸ポイントの参加者数が 3,000 人で、延べ人数が 4 万 4,263 人となっている。健幸ポイントについても、色々な方法の検討を進めてまいりたい。
日野会長	健幸ポイントの参加者だけが健幸ウォーキングの参加者では無いのでは。
事務局	健幸ポイントの参加者には健幸ウォーキングの参加でポイントが付与されるため、ほとんどが健幸ポイントの登録者だが、入っていないくて

	も、参加できる。しかし、実人数は把握していない。
日野会長	ポイントは付加的には良いが、基本はウォーキングに参加することが重要。ポイントについては、沢山の人に参加してもらえるような仕組みを検討しても良いと思う。
鈴木委員	3,000人が予算上限なら、上限を超えた場合は、先着なのか、抽選なのか、ターゲット分けるなど方法はあると思う。そもそも3,000人以上のニーズはあるのか。
事務局	健幸ポイントの参加者は、先着で3,000人となっている。 現在も問い合わせは頻繁にあることから、人数募集の際は定員の増加を含め検討していきたい。
日野会長	他には、福祉バスが無料なのは近隣では高石だけ。福祉バスの利用者の増はいいことであり、ウォーキングをしていなくても、健幸まちづくりに貢献している。高齢者等が行き先を持っていることは、これからのまちづくりに重要なことで実績値も増加しているので評価できる。 次に、医療介護連携の数も100や200などの目標が適正なのか。実績としてはほぼ横ばいなので、ニーズは一定しているとも考えられる。こんな工夫があれば増える、というのものもあるのかもしれない。 次に、コミュニティについても51と急に増えており、ギャップがある。全ての自治会に本当に必要なのか、検討いただきたい。 また、子ども食堂が話題となっており、コミュニティカフェにとらわれず、お年寄りだけでなく、子どもも含め、人の集まれる場所づくりも一度検討いただきたい。
日野会長	基本目標3は、KPIの設定そのものの妥当性もある。昨年度、4年間の利用者数の推移を見ると、おおむね増加傾向にあり、各施策は一定評価できる。 ウォーキング等についてはポイントとの関係を整理、ポイントが制約にならないよう、本来の趣旨に沿って、検討していきたい。 福祉バスの乗客数について、利用者の制限はあったか。
事務局	福祉バスは移動しにくい方が対象で、60歳以上、妊婦、乳幼児、その保護者、障がいの方、その介護者が無料で使える。

日野会長	<p>皆が乗れるバスがあって、中で会話があつたりする。それが増えているということは、障がいの方にとっても移動しやすいまちということになる。もっと評価されてもいい。</p> <p>乗っている人の健康や、その人がまちで買い物することを考えれば、トータルの収益としては、無料でもペイしているのではないか。</p> <p>この項目についても、分母が極端に増えている。適正な事業評価できるように KPI の設定を検討いただきたい。</p> <p>全体としては増加傾向にあるのでおおむね順調である。ただ、今の KPI については、検討いただきたいということで、いかがなものか。</p>
各委員	(異議なし)
基本目標 4 : 住みたくなる環境を整える	
事務局	<p>基本目標 4 は、平成 30 年度に実施した事業は 14 項目の KPI と 3 項目の事業目標。KPI の内 6 事業が目標を達成し、事業目標は 1 事業が達成となっている。</p> <p>目標値の 70% を超えている事業が全体の 76.9% で、おおむね順調に推移していると認識している。今後は、未達成が多い分野において、原因を把握し、目標達成に向け改善したい。</p>
日野会長	前半部分の教育に関する項目について、西村委員からご質問・ご意見などをお願いしたい。
西村委員	<p>教育の ICT 化の推進について、小学校は 90% と達成率が高いが、中学校達成率が低い。</p> <p>昨年の審議会では、中学校は大型テレビがない等ハード面にネックがあると聞いた。</p> <p>今後の見込みについて聞きたい。</p>
事務局	<p>昨年度、各小学校の普通教室に大型モニターを設置したが、中学校は未整備。</p> <p>しかし、今夏、中学校の普通教室に常設のスクリーンの設置を予定している。また、無線環境の整備も行い、完成すれば、目標を達成できると考えている。</p>

西村委員	<p>ハード面の環境が整いつつあるので、その活用について検討していただきたい。</p> <p>また、全国学力学習状況調査で大阪府平均点数を上回っているのは4教科中1教科となっているが、授業の内容がよくわかるとの回答がほぼ80%近くになっている。</p> <p>英語能力判定テストも年々よくなっているので、自信をもっていい。学力テストの点数だけでは見れないものもある。</p> <p>よりきめ細かく子どもが学ぶ楽しさを実感できるような授業改善に努めて欲しい。</p>
事務局	<p>学校現場では、学力向上や英語教育も、引き続き努力している。</p> <p>大阪府と歩調を合わせていくものでもあり、都道府県別の点数が出たが、進んでいる部分もある。</p> <p>周辺の市と情報交換しながら高石市も進めてまいりたい。</p>
日野会長	<p>余談だが、私は全国学力学習状況調査については気にしなくていいと思う。</p> <p>高石は英語が得意ということだが、羽衣国際大学などと連携して、高石市で過ごすバイリンガルになる等でアピールするのはどうか。</p> <p>教育のICT化は、どのくらい本当の教育に貢献、寄与しているのか。次のステップを考えた時にそれがどれだけ効果があるのか等検討してほしい。ちゃんと使わないと逆効果になることもある。</p>
日野会長	<p>後半部分の住宅関係に関する項目については、鈴木委員からご質問・ご意見などをお願いしたい。</p>
鈴木委員	<p>全般的に数字はいい。特に空き家、住宅関係の支援メニューは高い数値、好評といえる。</p> <p>2・3世代同居近居については、他も基本目標1にも関連するいい施策だが、届いて欲しい人に届いているのか。数字だけでは分からない。</p> <p>誰が使ってくれているのか。市外からの転入はどこからきているのか、分析したほうがいい。</p> <p>アウトカムよりアウトプットになりがちなのは致し方ないが、次の戦略ではそこを振り返ることが大事。</p> <p>また、宿泊者数、HPなど、ここは一転して数字が良くない。</p> <p>HPの閲覧数がまちづくりにとどれだけの意味があるのか私には分か</p>

	<p>らない。宿泊者数もなぜこれを設定したのか、もう一度、問い直した方がいい。泉州全体、大阪近辺、関西の宿泊者数はものすごく伸びている。一方でホテル数も非常に増えている。需要と供給にすごく影響を受ける。</p> <p>その人達にホテル代を払って欲しいのはもちろん、泊まったからには夜の町での消費を期待していると思うが、そんなに大きな市域でない高石市であればこそ、泉州全体でどういう位置づけをとりにいくのか、この数字も見ながら作戦をきちんと練った方がいい。</p> <p>平成 30 年度において、10 万人をねらって 5 万 3,000 人では、伸びているとは言いがたく、振り返った方がいい。</p> <p>住宅関係で使われた方の属性、どこから来たかなど、後ほどでも追えるものなのか。</p>
事務局	<p>現在は、個人情報との関係もあり、前住所地等の情報は、積極的に収集していない。</p>
事務局	<p>平成 30 年度では、大阪府内の市町村間で 155 名の転入超過。</p> <p>主な転入としては、対岸和田市で 50 人の超過、対堺市で 37 人の超過、対泉大津市で 37 人の超過、対大阪市で 18 人の超過となっている。</p> <p>主な転出としては、対和泉市で 26 人の超過となっている。</p> <p>年齢別で見れば、転入出が多い年齢は 0 歳から 4 歳、20 歳から 39 歳で、それらをふまえれば、いわゆる子育て世代が平成 28 年から高石市に多く転入していると推測できる。</p>
鈴木委員	<p>基本的にどの施策もそうだが、やったかやっていないかで、どんな数字の変化があるかが大事。</p> <p>アンケート等、何か効果を知る手立てや施策を振り返る仕組みをしないと KPI の意味があまり無い。</p>
日野会長	<p>転入転出のデータは分かると思う。たとえば、利用者の転入は分かるのではないか。</p>
事務局	<p>現時点でわかっている範囲では、各 4 事業あり、重複して申請している方もいるので、あくまでそれぞれの事業における申請者についてだけだが、例えば、災害に強いまちづくり事業では、申請 168 件、うち市外から 56 件。2・3 世代同居支援事業では、申請 71 件、うち市外から</p>

	13 件などとなっている。
鈴木委員	この制度がなかったら、その人達は来なかったかどうか重要で、100%分からないかもしれないが、そこをたずねる仕組みを是非作ってほしい。
日野会長	<p>市内で 58 人移動しているということは、別に市外からこなくても、少し離れている人が一緒に住んで、ということがあるなら、目指している方向に効果があるのではと思う。</p> <p>市外から人を連れてくるのがいいとは限らない部分もあると思うので、こういう目標や目的を考えていただく。</p> <p>分かる範囲で情報を集めてもらおうと、こういう目的があつてこの事業をしたが、このような利用があつて、数は少ないが評価できるなどが言える。</p> <p>数字を見る限りこの事業はうまくいっている。</p> <p>ちなみに、自転車レーンは残しておくのか。</p>
事務局	<p>自転車レーンは平成 29 年度、平成 30 年度、新規では作っていない。</p> <p>今年度の事業として市役所前通りの 500 メートル間の道路の改良工事、それに合わせて設置を考えている。</p>
日野会長	<p>総合戦略としてあげる事業なのか。上げた時に目的、目標は何なのか。それをふまえて、KPI を再検討するよう、ご留意いただきたい。</p> <p>基本目標 4 についても、おおむね進捗していて、教育で言えば英語、同居近居、など他の市に比べればいい数字といえる。基本目標 4 の中で特筆できるものではないか。市内外にアピールしてもらいたい。</p> <p>後は事業としてあげるかどうか。事業の目標値は KPI としてそれでいいのか、引き続き検討して欲しい。</p> <p>基本目標 1 から基本目標 4 までについて、全体としては経年変化で見るとの方がいいのではないかと、そうしてみると、おおむね、どの目標についても一定効果があつたと評価できる。</p> <p>ただ、KPI 数値について、設定の仕方、達成率という観点からの評価についても改めて検討をいただきたい。</p> <p>もう一度、平成 31 年度、5 年分に向けては、評価が出来るような形でお願いしたい。</p> <p>各委員からいただいたコメントは、担当課中心に改善方法を検討いた</p>

	だきたい。いかがなものか。
各委員	(異議なし)
その他：地方創生推進交付金の交付を受けた事業について	
日野会長	<p>次に、地方創生推進交付金を活用した施策、「健幸のまちづくり事業から生まれた新規雇用者数」、「新規ヘルスケア商品・サービス創出数」、「協議会参加団体数」、「人材バンク登録者と企業のマッチング数」の4つのKPIについて評価が必要である。</p> <p>基本目標2でもご意見をいただいたが、基本目標2の評価と同じようになるかと思うが、難しいKPIが多い。引き続き実現に向けて、ご努力いただきたいと思うが、いかがなものか。</p>
各委員	(異議なし)
日野会長	<p>人材バンクはこれではなくて、行政が、リタイアした方の年金の支給などの書類の送付に、アンケート調査などを入れて、登録してもらい、行政の中で活躍していただいたりするなどの施策をやればどうか。</p> <p>就職となると若い人は売り手市場でわざわざこない。リタイアした方も、もう一回は難しい。先ほどの、高齢者の生きがいつくりやまちの活性化になるため、人材バンクはその方向で考えるのはどうか。</p> <p>難しい事業ではあるが、引き続き努力をお願いしたい、ということで総括としたい。</p>
日野会長	広域連携事業について、事務局から説明をお願いします。
事務局	<p>広域連携事業は、「(仮称)泉州観光DMO推進事業」である。</p> <p>本事業は、KIX泉州ツーリズムビューローへの参加である。KIX泉州ツーリズムビューローはマーケティング調査結果を踏まえ、観光客数および地域内消費額の増加による地域経済の活性化を図っている。</p> <p>また、観光客(特にインバウンド客)のニーズを把握するため、アンケート調査を含むマーケティング調査を継続的に実施している。</p> <p>KPIは5項目で、「市内宿泊者数」(本市KPIと同じ)、広域のKPIとして「泉州の訪日旅行者数」、「泉州の来訪者満足度」、「泉州の延べ宿泊者数」、「泉州での一人当たりの旅行消費額」がある。</p> <p>実績値は、「市内宿泊者数」と「泉州の訪日旅行者数」以外は100%を</p>

	超えている。
日野会長	高石市がどれだけかかわったか分からない。全体として増えているので、高石市が足を引っ張っているわけでもないだろうと思われるので、一定の評価ができると思うが、いかがなものか。
各委員	(異議なし)
日野会長	第2期の策定に向けて、国の情報等を事務局から説明いただけるか。
事務局	<p>国の基本方針では、市町村が地方版総合戦略を策定する際には、国及び都道府県の総合戦略を勘案して作成することとなっている。</p> <p>第2期総合戦略策定に向け、国の基本方針に示されている「新たな6つの視点」を紹介する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「地方へのひと・人の流れを強化する」については、関係人口の創出・拡大と寄付等による地方への資金の流れを強化していく。</li> <li>2. 「新しい時代の流れを力にする」については、Society5.0の実現に向けた技術の活用。</li> <li>3. 「人材を育て活かす」については、地方創生の基盤をなす人材の掘り起こしや育成、活躍を支援。</li> <li>4. 「民間と協働する」については、公共団体だけではなく、組織や企業と連携していく。</li> <li>5. 「誰もが活躍できる地域社会をつくる」については、誰もが居場所と役割を持ち、活躍できる地域社会を実現していく。</li> <li>6. 「地域経営の視点で取り組む」については、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」づくりなどに代表される考え方などのことで、地域の経済社会構造全体を俯瞰して利域をマネジメントしていく。</li> </ol>
日野会長	4つの基本目標は変わらないのか。方法論的なものが多いが。
事務局	国の基本方針に変更はない。そのため、本市においても大きく変わることはない。よって、新たな視点を考慮し、新たな施策を検討したい。
日野会長	第2期総合戦略の策定の際は、それぞれの視点をどのように解釈するのか、それは高石市ではこのような事業でどのように評価したらいいのか、脈絡付けをして説明を。

事務局	承知した。
事務局	本日は、長時間にわたり誠にありがとうございました。 いただいたご意見は、事務局で取りまとめたうえ、日野会長と調整させていただきます、委員の皆様へお示しさせていただきたい。